



新 年号のほっとTタイムは、高崎にゆかりのある飛躍する若い女性にスポットを当てます。高崎パスタをPRする大食レントの石関さんとNHKのテレビ番組に出演しているタレントの岡田さん、ラジオ高崎でアナウンサーを務める和田さんの、頑張る女性3人をお迎えし、自身の活動にちなんだエピソードなどを伺います。



高崎発 活躍する女子の力

チカラ

高崎つながりの女性の活躍

市長 今日は高崎にご縁のある、現在活躍中の女性にお集まりいただきました。岡田さんはNHKの教育テレビにご出演されていますが、なぜ芸能界になられたのですか？

岡田 小学生の頃からタレントになるのが夢で…。高校生のときに、東京のラジオ番組のオーディションに受かってレギュラー出演していました。

市長 すごいチャレンジ精神！
岡田 今から14年前になります。が、私じゃなきゃできない仕事をしたいと思い、粘土を作る子どもたちのアイドル「ねんどル」として、粘土を子どもたちに教える仕事を始めました。食育を伝えたり、協調性を育んだり、いろいろなテーマを持ってやっています。

市長 すばらしいですね。石関さんは、キングオブパスタの大使としてご出演なさっても、謝礼を受け取らないのだからか。

石関 はい。ほとんどボランティアです。地元愛というのか、高崎を広めたいという一心で。
市長 頭が下がります。大食いタレントになったきっかけは？
石関 勤務先の上司に勧められて大食いを競う番組に出演したら勝っちゃったことです(笑) 病気であまり食べられないとい

う人から「ゆりもりさんを見ていつも食べた気持ちになって、いつもコメントを私のブログにいただいています。この仕事って人に喜んでもらえるんだと思うとやる気が出ます。

市長 うれしいですね。「キングオブパスタ」もかなり知名度が上がりましたが、高崎のパスタのお店と言ったらシャンゴさん。数年前に亡くなられたオーナーと話をしたときに、「パスタを高崎の本場のメジャーにしたい。街のメイン通りをパスタの店で埋めたい」という情熱的な話を聞きました。

石関 キングオブパスタの出演店にも、シャンゴさんを尊敬しているシェフが多いです。
市長 高崎には昔から粉もの文化がありました。パスタは元からあったものではありませぬ。キングオブパスタという催しも市民が作り上げたことを考えると本当に素晴らしい。皆がガッツを持ってやったことで「パスタの街」という知名度が上がったんですね。さて、和田さんは、元々アナウンサーを志していたんですか？

和田 最初はアニメなどの声を吹き込む「声優」志望で、都内の専門学校に新幹線で通ってました。学校ではラジオ番組を

作る授業もあったんですよ。毎日通学するときに駅のスタジオの前を通って「地元ラジオがある！」と思ってラジオ高崎に就職しました。

市長 ラジオ高崎は、地域の情報や防災情報、いろいろな番組を放送していますね。面白いプロジェクトも手掛けて。

和田 ありがとうございます。最近インターネットでも聞けるので、県外の人からのメッセージも多いんですよ。
市長 地域放送は貴重な存在です。ところで和田さんの声は確かに声優さんの声ですね。

和田 そうですか(笑)
マルチタレントと行動力
ゆりもりの言葉で手紙

市長 石関さんはヘアデザイナーもしているんですか？
石関 はい。将来はアパレルなどの仕事もしたいです。

市長 違う世界に一步を踏み出すことは人生の大転換。三人とも、マルチタレントですね。一芸に秀でた人は、他の才能も持っている人が多いものです。これからはそういう人が力を発揮すると思います。岡田さんは、やってみたい仕事がありますか。
岡田 これまで普通のタレントを目指していましたが、今は子



ゆりもりの愛称で、大食いタレントとして活躍中。キングオブパスタ2015をPRする初代・高崎パスタ大使を務める。現在、群馬県内を中心にヘアデザイナーとしても活躍。高崎市在住。

石関友梨さん
YURI ISHIZEKI



子どもたちに、粘土のミニチュアフード作りや食育を伝えるエデュテインメントアーティストとして活躍。Eテレ(NHK)の『ニャンちゅうワールド放送局』でおねんどお姉さんとして出演中。高崎市出身。

岡田ひとみさん
HITOMI OKADA



ラジオ高崎で、木～日曜日に生放送の情報番組などを担当。「人と人とのつながりを大事に、何事も楽しんで吸収しながら成長していく」をモットーに、聞く人たちに元気を届けるアナウンサー。高崎市在勤。

和田菜摘さん
NATSUMI WADA



いつも市民目線を大切に、働くママを支援する事業や子育て支援事業など、女性目線の政策にも力を入れている。頑張る女性をさらに応援したいと考えている。

富岡賢治高崎市長
KENJI TOMIOKA



岡田さんが粘土で作るミニチュア料理の作品。米粒も細かく再現されている

どもたちに特化した仕事をしていきたいと思っています。

市長 高崎市民は演劇など、創作活動への参加意欲が旺盛です。今度、高崎と前橋で市民演劇やオペラ、ミュージカルなどの競演週間をやるようになっています。

岡田 良いですね。私は幼稚園のときに、音楽センターで演劇などをしたことがきっかけで、舞台上に立ちたいと思うようになりました。子どものころの経験は大切ですね。

市長 そうですね。お祭りの山車でお囃子に小さな子どもが参加していますが、その思いはずっと忘れないものです。そうして岡田さんのように人生の大転換につながる可能性があるんですよね。

市長 高崎のイメージを皆さん

に盛り上げていただいています。もう少し特色が欲しいとも思います。例えば、駅を降りて食べる物「高崎と言えばコレ」という食のイメージとか。

石関 県外から来た人に紹介するときには悩みますね。

市長 ディレクターとか出演者へのお土産とか…。岡田さんはいかがですか？

岡田 私の知り合いで好きなのはやっぱりだるま弁当とか…。
石関 テレビのニュースで、だるま弁当がJR東日本主催の駅弁総選挙で第2位になったと知りました。

市長 それはすごい。そういうことをアピールすることも必要ですね。私はね、焼きまんじゅうをお土産にするんです。

和田 昨年、金沢市で開催した物産展で焼きまんじゅうは大人気でしたよ！観光協会と一緒に高崎のPRをしたんですが。

市長 大人気でしたか！
和田 はい。でも会場で地元の人から「高崎は何がおいしいの？」って聞かれるんですよ。知られていないのだったら、今から印象付けをすればいいと思います。焼きまんじゅうの他にも、飲むヨーグルトとか漬物とかホルモンとか、おいしいものはいっぱいありますよね。

市長 私もそう思います。知ら

ない、知名度が低いことは問題じゃないんです。

和田 出先でいっぱい広めちゃいます。高崎の焼きまんじゅう。高崎の文字がパッケージのお酒とかもお土産になるのでぜひ作ってほしいですね。

市長 良いですね。他にも何かアイデアがありますか？

和田 これから新体育館や音楽ホールができることで、県外や国外の人が高崎に多く来るようになりますよね。その方達にだけだけ快適に過ごしていただいで、もう一回来たいって思ってもらえるかというのを考えることも大事だと思うんです。そのためには先ほどの食のイメージ作りや、来た人たちが市内を巡る計画が立てられるようなまちづくりができれば良いなと思います。

市長 今「地方創生」といわれていますが、私は地方からの文化発信をそんなに大げさにとらえなくてもいいと考えています。自分のところで誇れるものをベストを尽くして発信すればいい結果につながります。皆さん、これからのいろいろと協力してください。そして頑張ってくださいね。

三人 どうもありがとうございます。